



初春によせて(年頭所感)

～ 建設業を魅力ある持続可能な産業へ ～

一般社団法人 青森県建設業協会
会 長 鹿 内 雄 二

新しい年の幕開けにあたり、謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

平素より、当協会の活動に対しまして格別のご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

建設業は、地域の社会資本整備や災害対応を担う「地域の守り手」として、地域経済と雇用を支える重要な基幹産業です。昨年も、激甚化する自然災害への対応やインフラの維持管理において、会員企業の皆様が果たされた役割は極めて大きく、地域の安心・安全の確保に多大な貢献をいただきましたことに、改めて深く敬意を表する次第です。

一方で、建設業界を取り巻く環境は依然として厳しい状況にあります。担い手不足や高齢化の進行に加え、働き方改革への対応が求められる中、特に時間外労働の上限規制が本格施行されたことにより、施工体制の見直しや生産性の向上が急務となっております。

青森県は、全国的に見ても社会資本整備が遅れており、災害に対する脆弱性が顕著です。二つの半島から成り立つ地理的特性を踏まえた防災対策が求められており、特に原子力施設が点在する下北半島では、避難路等の整備が喫緊の課題となっております。地域住民の安全を守るためにも、早急に取り組むべき重要なテーマであります。

こうした中、昨年6月には「第1次国土強靱化実施中期計画」が閣議決定され、今後5年間で約20兆円強の予算を目途

に、激甚化・頻発化する自然災害への防災対策に加え、インフラの老朽化への対応が進められることとなりました。青森県においては、整備の加速が急務であり、国直轄事業の大幅な増額による重点的な予算配分が強く求められます。特に、東北各県と比較しても国直轄事業の割合が極端に少ない現状を踏まえ、国への働きかけを強化していく必要があります。

また、人口減少が進行する中で、地域建設業が今後も「地域の守り手」としての役割を果たし続けるためには、安定した事業量の確保と適正な利潤の確保が不可欠です。若年層の入職促進や技能継承の仕組みづくり、働きやすい職場環境の整備を通じて、魅力ある産業としての建設業を確立していくことが重要です。加えて、ICTやDXの活用による業務効率化や、女性・高齢者の活躍推進など、多様な人材が活躍できる環境づくりも求められています。

当協会といたしましても、こうした課題に真正面から向き合い、会員企業の皆様とともに、地域の安全・安心の確保、そして持続可能な地域社会の実現に向けて、引き続き尽力してまいります。行政機関や関係団体との連携を一層強化し、建設業の社会的使命と価値を広く発信していく所存です。

本年も、皆様のご健勝とご多幸、そして建設業界のさらなる発展を心より祈念し、新春のご挨拶とさせていただきます。

令和8年 元旦